

天皇を中心とした中央集権国家が成立し、法律に基づいて政治を行う律令の時代になりました。そうした中、佐賀は、大陸から侵入する敵から国を守る重要な防衛の拠点でした。

九州の政治の拠点・大宰府を守るため築かれた基肄城  
(国指定特別史跡)



(基山町教育委員会 提供)

基肄城跡の平面図



(基山町教育委員会 提供)

基肄城の土塁跡

665年、基山町の基山(標高約405m)に築かれた山城です。敵の侵入を防ぐための施設で、頂上から尾根の部分に、総延長約3.9kmにわたって土塁を巡らせてきました。百濟から亡命した高官たちが、築城を指揮したといわれています。

礎石群

武器や食糧などを保管していた建物の土台の跡。

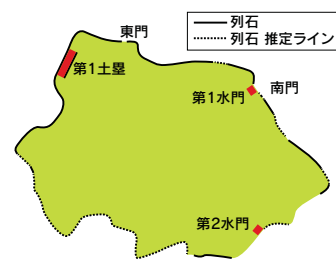


(基山町教育委員会 提供)



(武雄市教育委員会 提供)

おつぼ山をとりまく神籠石の配置図



(武雄市教育委員会「おつぼ山神籠石案内図」を参考に作成)

おつぼ山神籠石(国指定史跡)

神籠石とは、防衛の目的でつくられた山城の一種で、山の頂上を取り巻くように、直方体に切りそろえられた列石が見られます。県内には、おつぼ山神籠石(武雄市)と帯隈山神籠石(佐賀市)の2カ所が残っています。

古代北部九州における防衛拠点や山城



大宰府を守るために、各地に山城や神籠石が築かれたと考えられています。

肥前国と国府の役割

肥前国庁模型



(佐賀市教育委員会 蔵)

中央政府から役人が派遣されて、政治・裁判・軍事などの指揮、税の徴収、儀式などを行っていました。肥前国の国府は、現在の佐賀市大和町にありました。

- 肥前国：おおむね現在の佐賀県・長崎県をあわせた地域(壱岐・対馬を除く)
- 国府：現在の県庁所在地
- 国庁：現在の県庁

大宰府政庁とよく似た形状の建物配置です。



肥前国庁跡  
(南門と一部を復元)

佐賀市大和町に肥前国庁跡が復元整備されました。

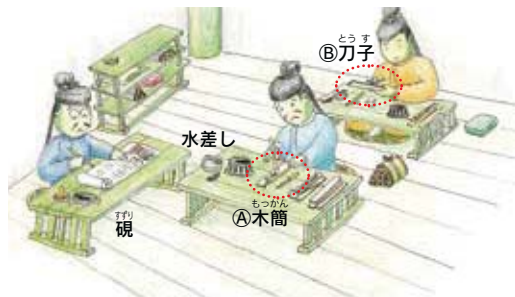
(佐賀市教育委員会 提供)

重要な施設は官道沿いに整備



- ① 肥前国分寺跡 } 奈良時代、聖武天皇によって国ごとに国分寺・国分尼寺が建てられました。
- ② 肥前国分尼寺跡
- ③ 官道跡(西海道) 官道とは都と地方を最短距離で結んだ道のこと。西海道は、大宰府から肥前国府につながっていました。

※地図上の赤い線が当時の官道です。



奈良・平安時代の役所の仕事風景(想像図)

- ① 紙は貴重品で、重要書類以外は木簡(木の札に文字を書いたもの)を用いていました。
- ② 書き損じは刀子と呼ばれる小刀で薄く削りました。

(佐賀市教育委員会提供資料の一部を改変 原画：松本隆昌氏)

『肥前国風土記』と『万葉集』に記された佐賀の姿



日の隈山

古代には、敵の侵入などを知らせる通信手段として、のろしを上げて合図をおくる烽火が各地に整備されました。『肥前国風土記』には、烽火が20カ所と記されており、その一つが日の隈山(神埼市)と考えられています。



きしまやま うたがき 神島山と歌垣 (白石町教育委員会 提供)

『肥前国風土記』に、杵島山で「歌垣」が行われていたことが記されています。杵島山は、この地域の若者たちが集まって、歌い踊る社交の場でした。



神集島

唐津湾の入り口に浮かぶか神集島は、風待ちの港でした。大陸に向かう船は、この島に立ち寄り、船出に適した風を待ってから玄界灘に出ました。島には7基の歌碑があります。



(唐津観光協会 提供)

見どころスポット

基肄城跡

基肄城跡には、歩いて史跡めぐりを楽しめるコースが整備され、山頂西側には草スキー場もあります。

肥前国庁跡資料館

住所：佐賀市大和町久井 2754  
 電話：0952-62-7441  
 開館：9時～16時30分  
 休館：毎週月曜日(ただし当日が祝日のときは火曜日)  
 祝日の翌日(ただし当日が土曜日・日曜日のときは休館しません)  
 12月29日～1月3日  
 料金：無料



(唐津観光協会 提供)

万葉の里公園

『万葉集』に収録された肥前国に関する歌の舞台は、ほとんどが唐津地方です。この地は朝鮮半島や中国大陸に近く、国防の最前線でもあったため、大宰府の長官だった大伴旅人は、軍事視察の目的もあってここを訪れ、その際、和歌を詠みました。

見どころスポット

万葉の里公園

住所：唐津市浜玉町浜崎 1901-389  
 電話：0955-72-9250  
 (唐津市まちづくり課公園係)



調べてみよう!

『肥前国風土記』には、どんなことが書かれているんだろう?



見どころスポット

